



永井 利明 議員
誠進会

問 小中学校教員の業務改善を

答 教員定数増に向け国に働きかけ



問 小中学校教員が超多忙になった理由は。

答 **教育長** 学校が抱える課題が複雑化、困難化している状態が拍車をかけている。

問 部活動指導が教員の大きな負担になっている。教育委員会の見解は。

答 **教育長** 来年度から外部指導員の複数配置を予定。

問 「登下校時の見守りは教員の業務外」という中央教育審議会特別部会の提言について教育委員会の考えは。

答 **教育長** 業務外と考える。



問 学校が毎日遅くまで電気がついているとの苦情があるが、何時までが許容範囲か。

答 **教育部長** 来年度から午後8時閉校を目指す。

問 時間外・土・日・祝日の電話対応は。

答 **教育部長** 今後、留守番電話での対応に切り替えた。

問 提言では補導時の対応も業務外とされているが。

答 **教育部長** 業務外と考える。

問 学校閉校日の予定は。

答 **教育部長** 8月のお盆前後で閉校にする案が協議中である。

問 給食費、PTA会費などの徴収を業務から外せないか。

答 **教育部長** 一部徴収業務は残るが、現在金融機関からの引き落としシステムで対応している。

問 教員定数の改善、35人学級の実施、主幹教諭・指導教諭の配置は。

答 **教育長** 教員定数の改善、実施は達成されていない。主幹教諭は海部地方で3名配属。指導教諭は県内未配置。

問 教員の再雇用、トラブル対応教員、スクールロイヤー(弁護士)、部活動指導員などの配置を。

答 **市長** 発達障がい児対応専門員を配置。生徒指導などは派遣指導主事が対応。スクールロイヤーは、市の顧問弁護士に依頼。部活動指導員は来年度6名配置。今後教員の業務量軽減を図っていく。

問 市独自の加配教員の増員は

答 部活動指導員を6名配置予定